

## Ⅱ 登録を契機とした「和食」の保護・継承の展開

---

# ○ 世界で日本の「食」が注目されている

## 和食ブーム

- 外国人観光客が  
「訪日前に期待すること」

1位「食事」(62.5%)

出典:JNTO 訪日外客訪問時調査(2010年)

- 外国人が好きな外国料理  
1位「日本料理」  
(66.3%)

出典:日本貿易振興機構調査(2014年3月)

※複数回答可、回答者数に対する回答個数の割合  
(自国の料理は選択肢から除外)

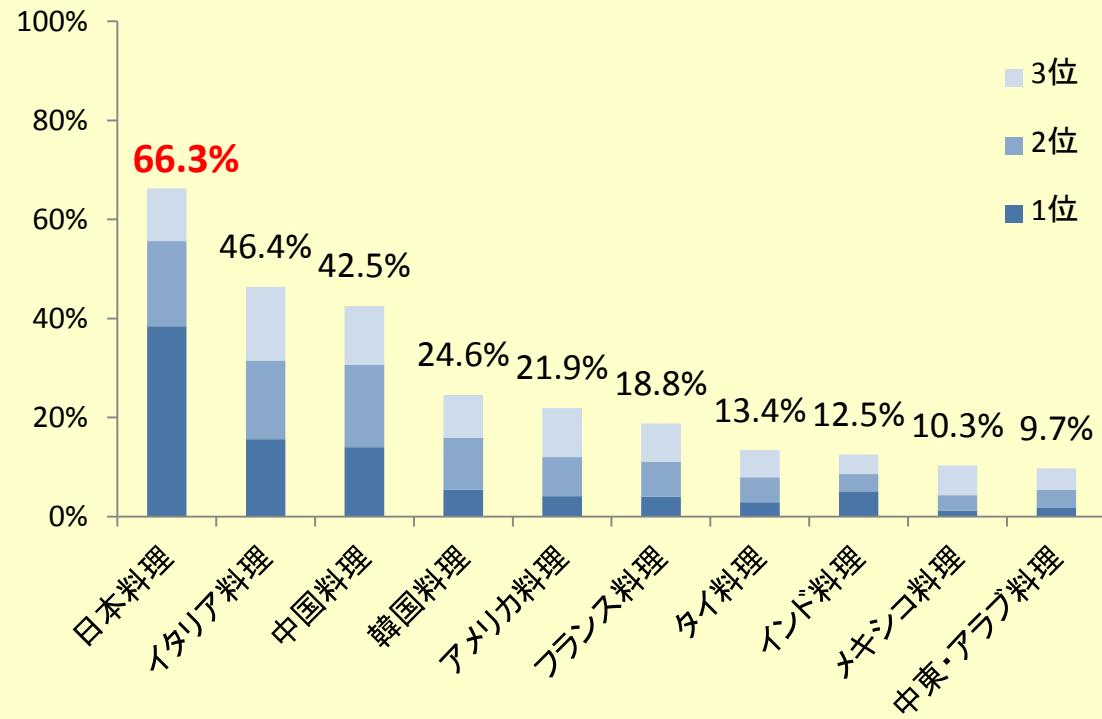
- 海外の日本食レストランの数

2006年 約2万4千店 → 2013年 約5万5千店

(外務省調べ、農林水産省推計)

## 好きな外国料理の1位は「日本料理」

### 好きな外国料理（6カ国全体結果）

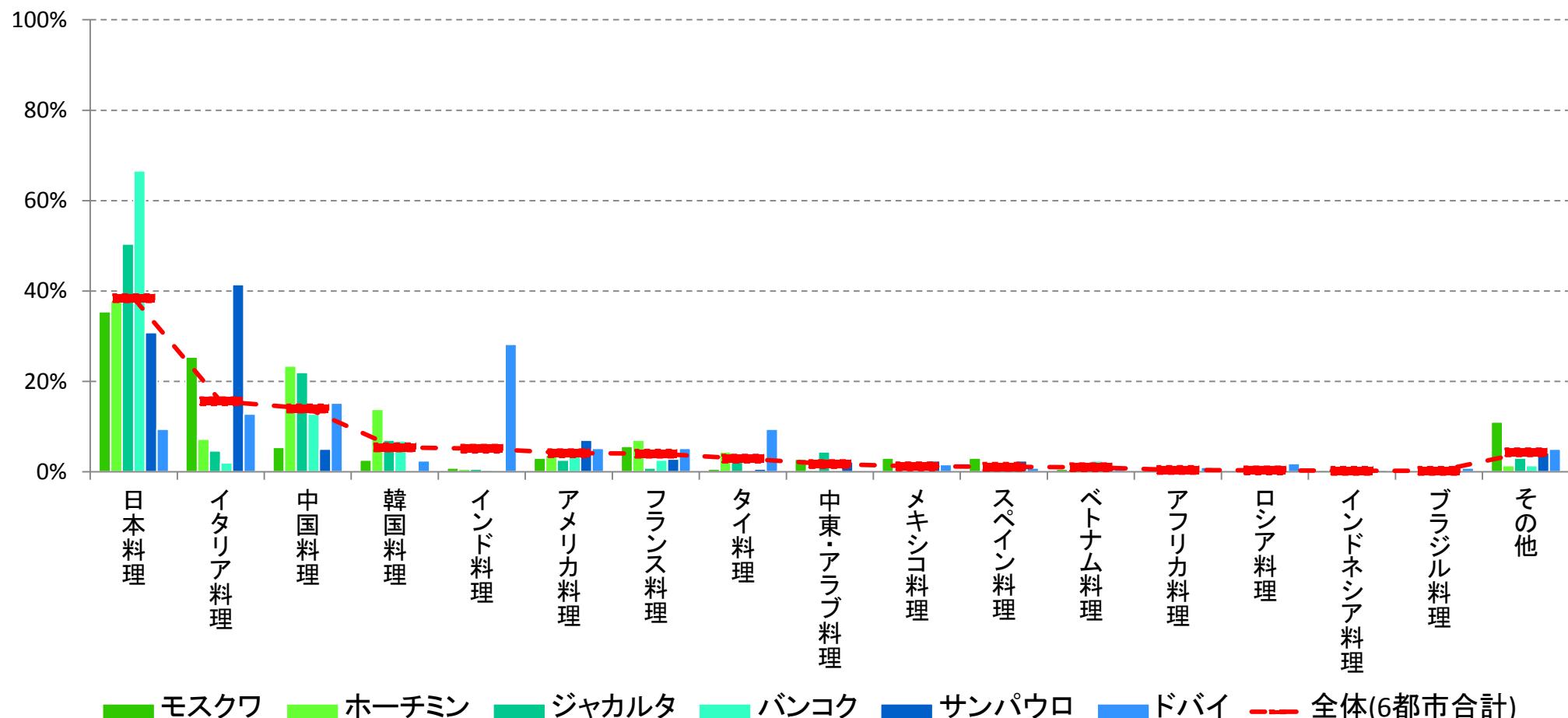


※複数回答可、回答者数に対する回答個数の割合。(自国の料理は選択肢から除外)  
出典:ジェトロ「日本食品に対する海外消費者意識アンケート調査」(2014年3月)を基に作成



# (参考) 都市別の「好きな外国料理」

- モスクワ、ホーチミン、ジャカルタ、バンコク、サンパウロ、ドバイの都市別のアンケート調査で、サンパウロ、ドバイを除く4都市で「好きな外国料理の1位」として「日本料理」が選ばれている。
- 4都市ではバンコク66.6%、ジャカルタ50.4%、ホーチミン37.8%、モスクワ35.4%であり、特にバンコクとジャカルタでは、「日本料理」の人気が突出している。



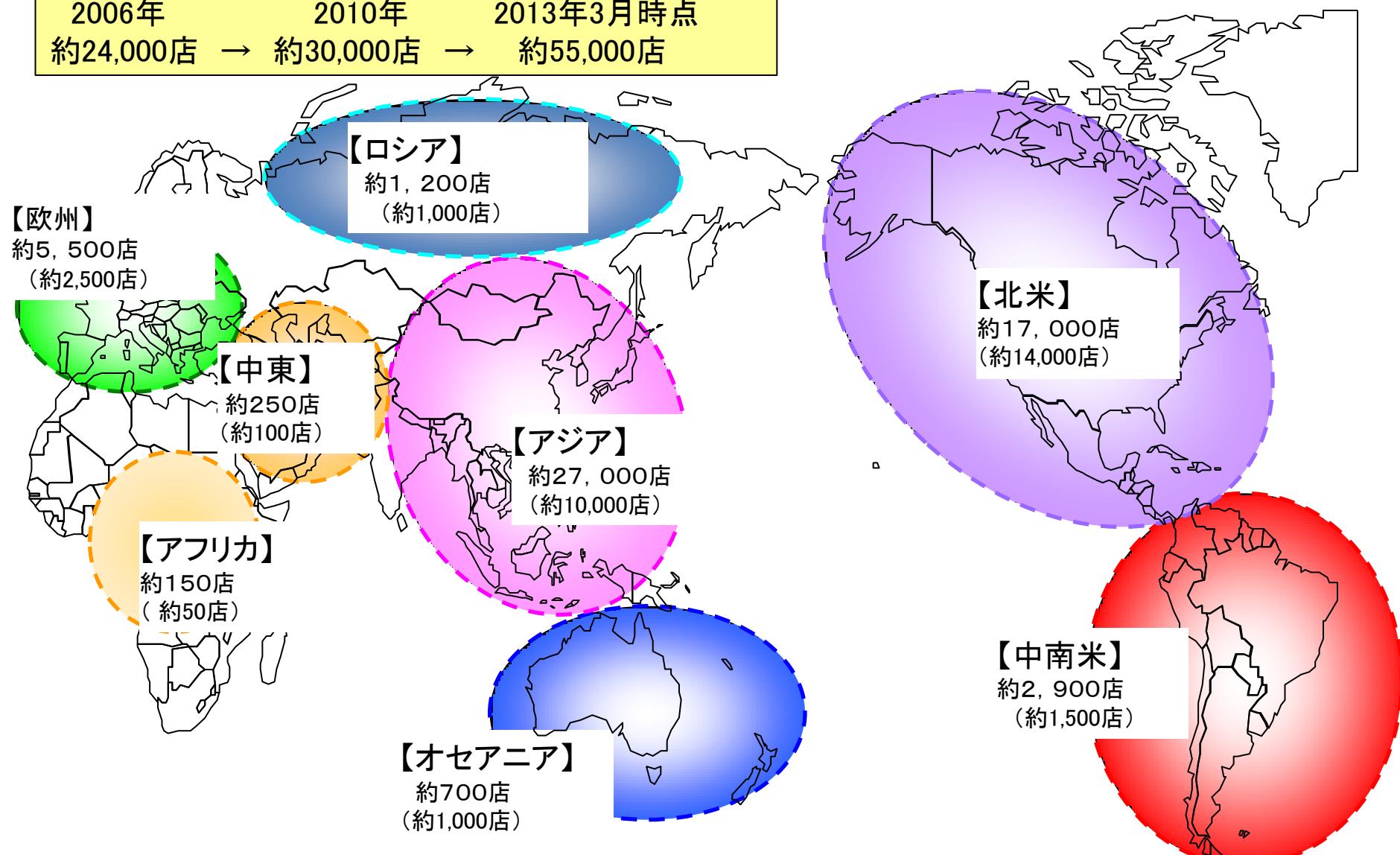
※自国の料理は選択肢から除外

出典:ジェトロ「日本食品に対する海外消費者意識アンケート調査」(2014年3月)を基に作成

# ○ 海外におけるいわゆる「日本食レストラン」店舗数の推移

※2013年に 外務省・在外公館の調査協力のもと、農林水産省が推計した店舗数

2006年 2010年 2013年3月時点  
約24,000店 → 約30,000店 → 約55,000店



※カッコ内 … 2006年「日本食レストラン海外推奨有識者会議」資料を元に、2010年時点の情報整理のうえ掲載(農林水産省推計)

# ○ 国内でも高まる「和食」への関心

## 「和食」に関する報道が増加

日本テレコムDBより最近の月別新聞記事の「和食」のヒット件数を見ると、2013年12月にユネスコの無形文化遺産として「和食」が登録されて以降、ヒット件数が大幅に増加し、「和食」への関心度の高まりが見られる。

### 「和食」新聞記事ヒット件数

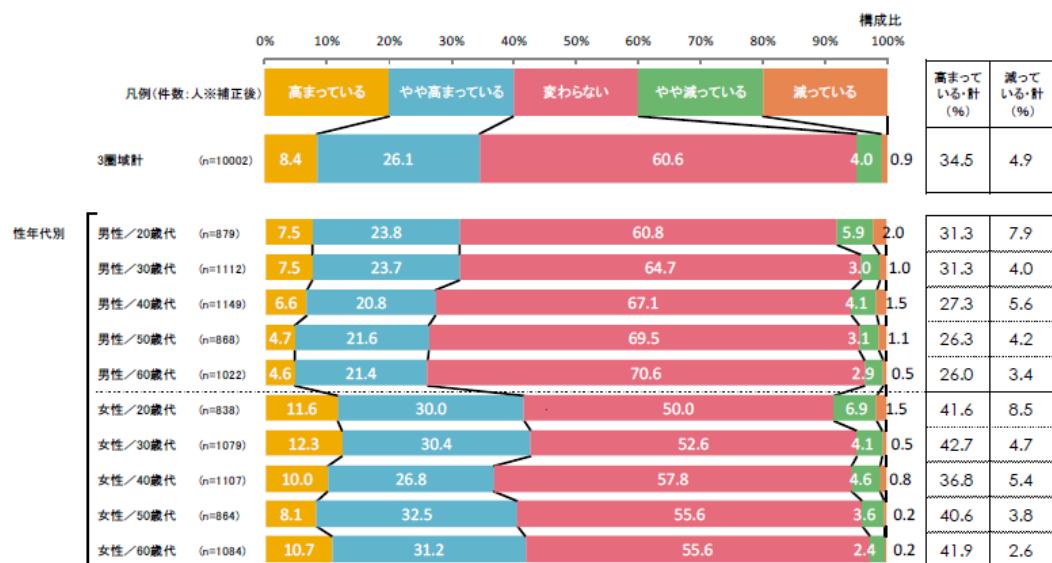


出典：日経テレコム（対象新聞：朝日、毎日、読売、産経、日経の朝夕刊の記事において「和食」というキーワードでのヒット・出現件数）

## 民間調査では国民が和食を食べる頻度が增加傾向との結果

民間のアンケート調査(リクルートライフスタイル(2015年1月14日公表)によると、この1年で和食を食べる頻度が増加した者(34.5%)が減少した者(4.9%)を大きく上回り、国民の和食を食べる頻度が増加傾向にあるとの結果も公表されている。

### ■この1年間における「和食」を食べる頻度の変化（3地域計／単一回答）



# ○ 和食会議（「和食」文化の保護・継承国民会議）について

## 経緯・概要

- 平成24年3月、「和食」の次世代への継承を目的として、「和食」のユネスコ無形文化遺産登録に向けた検討会の委員等が発起人となり、「日本食文化のユネスコ無形文化遺産化推進協議会」を設立。その後、平成25年7月に『「和食」文化の保護・継承国民会議』に改組。日本の食を支える食品メーカー、フードサービス、観光業などの様々な企業、そして地域の郷土料理保存会や食育団体・NPO・料理学校・学会・研究者等の食にかかわる団体・個人、地方自治体など会員(約700件)で構成される任意団体。
- 「和食」のユネスコ無形文化遺産登録に際して、「和食」の保護・継承に責任を持つ組織と位置付けられ、国内の保護・継承活動のモニタリングを行うことを主な任務としている。

会長／熊倉 功夫（静岡文化芸術大学学長）



副会長／村田 吉弘（日本料理アカデミー理事長）



江原 純子（東京家政学院大学名誉教授）



伏木 亨（京都大学大学院農学研究科教授）



## 今後の体制整備

安定的かつ継続的に「和食」の保護・継承活動を行うため、一般社団法人和食文化国民会議を設立(平成27年2月4日設立)し、平成27年4月に活動を開始する方向で準備中。

## 26年度の和食会議会員の活動例

- ・昨年の11月24日（「和食」の日）に農林水産省の事業を活用した以下の事業に参画。



『和食シンポジウム』（熊倉会長が基調講演、パネルディスカッションのパネラーとして参画）

・次世代の食文化を担う若者たちも参加して、「和食」を保護・継承していくことの大切さについて考えるシンポジウムを開催

『全国こども郷土料理サミット』（熊倉会長が審査委員長として参画）

・小学生の代表が、日本全国9ブロックにおいて、ふるさとや家庭の郷土料理をプレゼンテーションするコンクールを開催



『郷土料理の情報発信に向けたWebサイト公表』（和食会議が作成にあたりアドバイスを実施）

・各地の郷土食を地域や暦＜慣習＞等から検索でき、料理レシピや地元で食べられるお店等の情報をWEBを活用して発信

# 27年度予算「和食」保護・継承推進事業

- ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食」を広く国民全体で保護・継承するためには、和食の料理人、学者等をメンバーとする「和食」文化の保護・継承国民会議(民間団体)と連携しつつ、和食志向を維持・増大させていく必要。
- このため、「和食」の専門知識を有し、発信力の高い料理人、学者等で構成される検討会を立ち上げ、同検討会の取り組む「和食」の保護・継承に向けた活動を支援。

## 現状と課題

- 平成25年に「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録。
- これを契機に、「和食」の保護・継承に向けた機運を高めるとともに、需要フロンティアの拡大に繋げていく必要。
- 食の多様化等が進展する中、「和食」の存在感と活力が失われつつある状況。
- 次代を担う若者等の意見を踏まえた対応が必要。
- 「和食」の保護・継承に向けた機運を国全体で醸成するため、和食関係者と消費者を結びつける取組が必要。

## 「和食」文化の保護・継承 国民会議(和食会議)(※)

- ・和食の料理人、学者、企業、地域の食関連団体等から構成(会長:熊倉功夫 静岡文化芸術大学学長)
- ・「和食」の保護・継承に向けた国民運動の展開や会員の活動状況のモニタリング等の活動を展開

連携

## 平成27年度事業の内容

### 「和食」保護・継承検討会(仮称)

「和食」の専門知識を有し、発信力の高い料理人、学者等で構成される検討会を立ち上げ。検討会委員の専門知識と国民への発信力を活かし、以下の事業を実施。

#### ○ 「和食」の国民実態調査及び保護・継承策の明確化

- ・「和食」の代表的な要素(出汁、一汁三菜、発酵調味料等)をどの程度食生活に取り入れているか等について全国的なアンケート調査により把握。
- ・全国各地で、次代を担う若者も巻き込んだ「和食」をめぐる現状や今後の保護・継承策に向けた意見交換等を実施し、「和食」の保護・継承に向けた課題や効果的な方策等について検討・明確化・発信



→ 「和食」の保護・継承に向けた効果的な方策の検討・明確化・発信等を通じ、「和食」の保護・継承に向けた国民の機運を醸成

国産農林水産物等の需要の拡大  
和食資源をフル活用した地域活性化  
「和食」の保護・継承に向けた国民的な機運を醸成し、  
「和食」の文化的価値の確立

## 「和食」の次世代への継承

(※)平成27年3月末で解散。同年4月以降「一般社団法人和食文化国民会議」として活動予定。